

### 潮間帯・潮下帯の二枚貝類


和名	アサリ		
学名	<i>Ruditapes philippinarum</i> (Adams & Reeve, 1850)		
	マルスダレガイ目 マルスダレガイ科		
生物学的特徴	分布	サハリン、朝鮮半島、 中国大陸沿岸、北海道から九州	
	成貝殻長	2.5cm	
	主生息域	潮間帯中部から 10m の礫砂泥底	
利用	みそ汁、酒蒸し、バター焼き、佃煮		
備考			(渡部諭史提供；横浜海の公園にて採取)


和名	ヒメアサリ		
学名	<i>Ruditapes variegatus</i> (Sowerby, 1852)		
	マルスダレガイ目 マルスダレガイ科		
生物学的特徴	分布	房総半島以南、台湾、 東南アジア	
	成貝殻長	3cm	
	主生息域	外洋に面した岩礁域 の潮間帯から 5m の 砂礫底や礫石の隙間	
利用	市場には出ず地元消費される。アサリと同様に利用		
備考			(玉置泰司提供；上：壱岐にて採取、下：上対馬にて採取)

和名	オキアサリ		
学名	<i>Gomphina semicancellata</i> (Phillipi, 1843)		
	マルスダレガイ目 マルスダレガイ科		
生物学的特徴	分布	房総半島以南、台湾、 中国大陸南岸	
	成貝殻長	4cm	
	主生息域	潮間帯下部の砂底	
利用	アサリと同様に利用		
備考			(玉置泰司提供；上対馬にて採取)


和名	オニアサリ		
学名	<i>Protothaca jedoensis</i> (Lischke, 1874)		
	マルスダレガイ目 マルスダレガイ科		
生物学的特徴	分布	北海道南部から九州、朝鮮半島、中国大陸沿岸	
	成貝殻長	3.5cm	
	主生息域	潮間帯から水深 20m の砂礫底	
	利用	アサリと同様に利用	
備考	(玉置泰司提供；上 2 個体：横浜海の公園にて採取、下 2 個体：神奈川県三浦市にて採取)		


和名	コタマガイ		
学名	<i>Gomphina melanegis</i> Römer, 1861		
	マルスダレガイ目 マルスダレガイ科		
生物学的特徴	分布	北海道南部以南、九州、朝鮮半島	
	成貝殻長	5cm	
	主生息域	潮間帯下部から水深 50m の砂底	
	利用	アサリと同様に利用	
備考	(玉置泰司提供；宮城県にて採取)		

和名	オキシジミ		
学名	<i>Cyclina sinensis</i> (Gmelin, 1791)		
	マルスダレガイ目 マルスダレガイ科		
生物学的特徴	分布	房総半島から九州、朝鮮半島、中国大陸沿岸	
	成貝殻長	4cm	
	主生息域	潮間帯中部から水深 20m の砂泥底	
	利用	佃煮、みそ汁	
備考	(張 成年提供；熊本県白川干潟にて採取)		


和名	ハマグリ		
学名	<i>Meretrix lusoria</i> (Röding, 1798)		
	マルスダレガイ目 マルスダレガイ科		
生物学的特徴	分布	北海道南部以南、九州	
	成貝殻長	7cm	
	主生息域	潮間帯下部から水深20mの内湾の砂泥底	
利用	潮汁、焼貝、煮貝、佃煮		
備考	(張 成年提供；熊本県白川干潟にて採取)		

和名	シナハマグリ		
学名	<i>Meretrix pethechialis</i> (Lamarck, 1818)		
	マルスダレガイ目 マルスダレガイ科		
生物学的特徴	分布	朝鮮半島西岸から中国大陸	
	成貝殻長	7cm	
	主生息域	潮間帯下部から水深10mの内湾の砂泥底	
利用	潮汁、焼貝、煮貝、佃煮		
備考	(田中良男氏提供；市場にて購入)		

和名	チョウセンハマグリ		
学名	<i>Meretrix lamarckii</i> Deshayes, 1853		
	マルスダレガイ目 マルスダレガイ科		
生物学的特徴	分布	鹿島灘以南、台湾、フィリピン	
	成貝殻長	7cm	
	主生息域	潮間帯下部から水深20mの外洋に面した砂底	
利用	潮汁、焼貝、煮貝、佃煮		
備考	(齊藤 肇提供；茨城県神栖市波崎海岸にて採取)		


和名	ケマンガイ		
学名	<i>Gafrarium divaricatum</i> (Gmelin, 1791)		
	マルスダレガイ目 マルスダレガイ科		
生物学的特徴	分布	三重県、能登半島から東南アジア	
	成貝殻長	3cm	
	主生息域	潮間帯から水深 20m の砂礫底	
	利用	ほとんど流通しない（アサリと同様に利用）。	
備考			(玉置泰司提供；福井県小浜市にて採取)


和名	アラスジケマンガイ		
学名	<i>Gafrarium tumidum</i> (Röding, 1798)		
	マルスダレガイ目 マルスダレガイ科		
生物学的特徴	分布	奄美諸島からインド洋	
	成貝殻長	4cm	
	主生息域	潮間帯中部から水深 20m の砂礫底	
	利用	煮付け、みそ汁、煮貝	
備考			(張 成年提供；沖縄県泡瀬干潟にて採取)


和名	カガミガイ		
学名	<i>Phacosoma japonicum</i> (Reeve, 1850)		
	マルスダレガイ目 マルスダレガイ科		
生物学的特徴	分布	北海道南部から九州、朝鮮半島、中国大陸沿岸	
	成貝殻長	4cm	
	主生息域	潮間帯中部から水深 60m の細砂底	
	利用	煮付け、みそ汁、煮貝（あまり食用にはされない）	
備考			(渡部論史提供；横浜海の公園にて採取)


和名	ビノスガイ		
学名	<i>Mercenaria stimpsoni</i> (Gould, 1861)		
	マルスダレガイ目 マルスダレガイ科		
生物学的特徴	分布	東北以北	
	成貝殻長	8cm	
	主生息域	水深 5～30m の砂底	
	利用	刺身、煮付け、焼き物	
備考			(玉置泰司提供；北海道網走にて採取)


和名	ウチムラサキ		
学名	<i>Saxidomus purpurata</i> (Sowerby, 1852)		
	マルスダレガイ目 マルスダレガイ科		
生物学的特徴	分布	北海道南西部から九州、中国大陸沿岸	
	成貝殻長	8cm	
	主生息域	潮間帯から水深 20m の礫混じりの砂泥底	
	利用	焼き物にして美味	
備考			(玉置泰司提供；北海道日高町にて採取)


和名	エゾワスレ		
学名	<i>Callista brevisiphonata</i> (Carpenter, 1864)		
	マルスダレガイ目 マルスダレガイ科		
生物学的特徴	分布	三陸地方以北、沿海州、サハリン、南千島	
	成貝殻長	9.5cm	
	主生息域	水深 2～30m の砂底	
	利用		
備考			(玉置泰司提供；岩手県宮古産)


和名	オオミゾガイ		
学名	<i>Siliqua alta</i> (Broderip & Sowerby, 1829)		
	マルスダレガイ目 ユキノアシタガイ科		
生物学的特徴	分布	東北以北	
	成員殻長	10cm	
	主生息域	潮間帯から水深 20m の砂底	
	利用	刺身、バター焼き、 吸い物、美味	
備考	(玉置泰司提供；北海道斜里町にて採取)		

和名	バカガイ		
学名	<i>Mactra chinensis</i> Philippi, 1846		
	マルスダレガイ目 バカガイ科		
生物学的特徴	分布	サハリン、オホーツク海から九州、中国大陸沿岸	
	成員殻長	5cm	
	主生息域	潮間帯下部から水深 20m の砂泥底	
	利用	刺身、かき揚げ、煮貝	
備考	寿司だねの青柳は本種 (玉置泰司提供；横浜海の公園にて採取)		


和名	シオフキ		
学名	<i>Mactra veneriformis</i> Deshayes in Reeve, 1854		
	マルスダレガイ目 バカガイ科		
生物学的特徴	分布	宮城県以南、日本沿岸、朝鮮半島、中国大陸沿岸	
	成員殻長	3cm	
	主生息域	潮間帯中部から水深 20m の砂泥底	
	利用	みそ汁、煮貝	
備考	(渡部諭史提供；横浜海の公園にて採取)		

和名	ウバガイ		
学名	<i>Pseudocardium sachalinense</i> (Schrenck, 1862)		
	マルスダレガイ目 バカガイ科		
生物学的特徴	分布	鹿島灘以北、日本海北部、沿海州、サハリン、南千島、オホーツク海	
	成貝殻長	8cm	
	主生息域	潮間帯から水深 30m の砂底	
	利用	刺身、バター焼き、煮物	
備考	ホッキガイとも呼ばれる		(玉置泰司提供；網走にて採取)

和名	マテガイ		
学名	<i>Solen strictus</i> Gould, 1861		
	マルスダレガイ目 マテガイ科		
生物学的特徴	分布	北海道南部から九州、朝鮮半島、中国大陸沿岸	
	成貝の殻長	9cm	
	主生息域	潮間帯中部の砂泥底	
	利用	煮物、焼き物	
備考			(張 成年提供；熊本県白川干潟にて採取)


和名	ヤマトシジミ		
学名	<i>Corbicula japonica</i> Prime, 1864		
	マルスダレガイ目 シジミ科		
生物学的特徴	分布	本州から九州	
	成貝殻長	2cm	
	主生息域	河口汽水域の砂底	
	利用	みそ汁、佃煮	
備考			(片山知史提供；小櫃川河口にて採取)


和名	ヤエヤマヒルギシジミ		
学名	<i>Geloina erosa</i> (Lightfoot, 1786)		
	マルスダレガイ目 シジミ科		
生物学的特徴	分布	奄美大島以南、インドー太平洋の熱帯亜熱帯	
	成貝殻長	8cm	
	主生息域	マングローブ帯や河口潮間帯の泥底	
利用	食用にはなるが水っぽい。		
備考	シレナシジミ <i>Geloina coaxans</i> (Gmelin, 1791)、台湾ヒルギシジミ <i>G. fissidens</i> (Pilsbry, 1894)はシノニム (張 成年提供；西表島にて採取)		

和名	トリガイ		
学名	<i>Fulvia mutica</i> (Reeve, 1844)		
	マルスダレガイ目 ザルガイ科		
生物学的特徴	分布	陸奥湾以南、九州、朝鮮半島、中国大陸沿岸	
	成貝殻長	4cm	
	主生息域	水深 10～30m の内湾砂泥底	
利用	刺身、バター焼き、煮貝		
備考	(玉置泰司提供；岡山県笠岡市にて採取)		

和名	ミルクイ		
学名	<i>Tresus keenae</i> Kuroda & Habe in Habe & Ito, 1965		
	マルスダレガイ目 バカガイ科		
生物学的特徴	分布	北海道から九州、朝鮮半島	
	成貝殻長	8cm	
	主生息域	水深 5m～10m の砂底	
利用	美味、高級品、刺身で水管部のみを食べる		
備考	白ミルは別種のナミガイで本種は本ミルと呼ばれる (玉置泰司提供；千葉産)		




和名	ナミノコガイ		
学名	<i>Latona cuneata</i> (Linnaeus, 1758)		
	マルスダレガイ目 フジノハナガイ科		
生物学的特徴	分布	東北以南、熱帯 インド・太平洋	
	成貝殻長	2.5cm	
	主生息域	潮間帯上部の砂底	
備考			(玉置泰司提供；江ノ島産)

和名	アゲマキガイ		
学名	<i>Sinonovacula constricta</i> (Lamarck, 1818)		
	マルスダレガイ目 ナタメガイ科		
生物学的特徴	分布	瀬戸内海から九州、朝鮮半島、 中国大陸沿岸	
	成貝殻長	9cm	
	主生息域	潮間帯下部の内湾泥底	
備考			(玉置泰司提供；有明産)

和名	サラガイ		
学名	<i>Megangulus venulosa</i> (Schrenck, 1861)		
	マルスダレガイ目 ニッコウガイ科		
生物学的特徴	分布	銚子、北陸以北、オホーツク海、 朝鮮半島東岸	
	成貝殻長	10cm	
	主生息域	潮間帯下部から水深 20m の砂底	
備考			(玉置泰司提供；北海道小樽市にて採取)

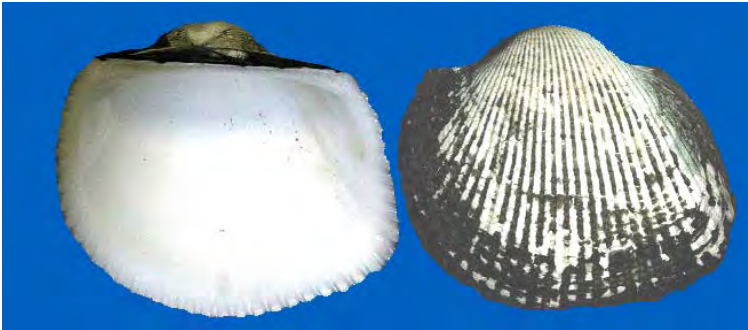
和名	オオノガイ		
学名	<i>Mya (Arenomya) arenaria oonogai</i> Makiyama, 1935		
	マルスダレガイ目 オオノガイ科		
生物学的特徴	分布	北海道から九州、朝鮮半島、中国大陸北東岸	
	成貝殻長	10cm	
	主生息域	潮間帯の砂泥底に深く潜っている	
	利用	干物、刺身、フライ	
備考			(玉置泰司提供；北海道様似町産)


和名	ナミガイ		
学名	<i>Panopea japonica</i> A. Adams, 1850		
	オオノガイ目 キヌマトイガイ科		
生物学的特徴	分布	オホーツク海から九州	
	成貝殻長	10cm	
	主生息域	潮間帯下部から水深30mの砂泥底	
	利用	水管を刺身で食べる 焼いても良い	
備考	通称白ミル		(玉置泰司提供；北海道網走にて採取)

和名	タイラギ		
学名	<i>Atrina (Servatrina) pectinata</i> (Linnaeus, 1767)		
	ウグイスガイ目 ハボウキガイ科		
生物学的特徴	分布	福島、日本海中部以南、西太平洋とインド洋熱帯域	
	成貝殻長	20cm	
	主生息域	水深40m以浅の砂泥底	
	利用	刺身、焼き貝、バター焼き	
備考			(玉置泰司提供；左：東京湾、右：産地不明)

和名	サルボウガイ		
学名	<i>Scapharca kagoshimensis</i> (Tokunaga, 1906)		
	フネガイ目 フネガイ科		
生物学的特徴	分布	東京湾から九州、朝鮮半島、中国大陸沿岸、南シナ海	
	成貝殻長	5cm	
	主生息域	潮間帯上部から水深20mの砂泥底	
	利用	煮物、刺身	
備考	肋数 32 本前後	(張 成年提供；熊本県白川干潟にて採取)	

和名	アカガイ		
学名	<i>Scapharca broughtonii</i> (Schrenck, 1867)		
	フネガイ目 フネガイ科		
生物学的特徴	分布	北海道から九州、東シナ海	
	成貝殻長	5cm	
	主生息域	潮下帯から 50m までの内湾砂泥底	
	利用	美味、高級品 刺身 冬から春が旬	
備考	肋数 42 本前後	(玉置泰司提供；市場にて購入)	

和名	サトウガイ		
学名	<i>Scapharca satowi</i> (Dunker, 1882)		
	フネガイ目 フネガイ科		
生物学的特徴	分布	房総半島から九州	
	成貝殻長	5cm	
	主生息域	水深 10~50m の砂底	
	利用	アカガイと同様に高級、刺身	
備考	肋数 38 本前後	(玉置泰司提供；横浜海の公園にて採取)	

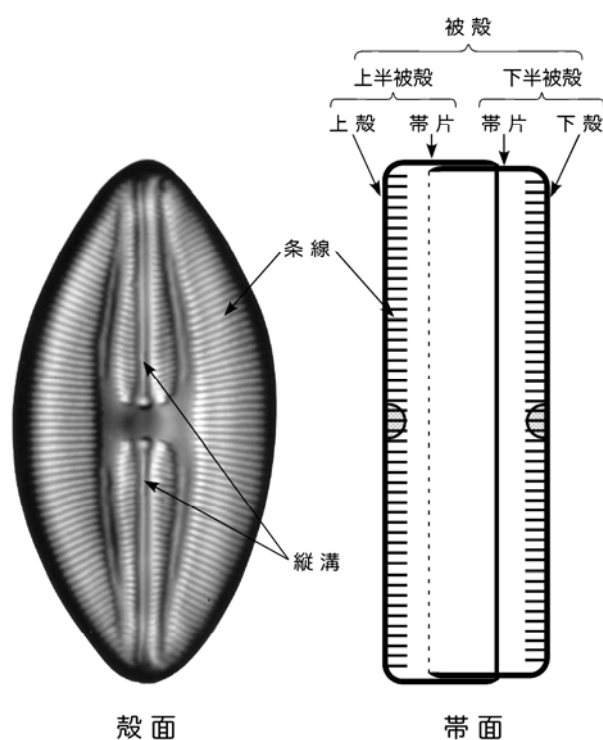
和名	クイチガイサルボウ		
学名	<i>Scapharca inaequalvis</i> (Bruguère, 1789)		
	フネガイ目 フネガイ科		
生物学的特徴	分布	房総半島から	
	成貝殻長	6cm	
	主生息域	潮間帯上部の細砂底	
	利用	煮物、刺身	
備考	右殻より左殻が大きい		(今井秀行氏提供；徳島県吉野川河口にて採取)

和名	スダレハマグリ		
学名	<i>Katelaysia japonica</i> (Gmelin, 1791)		
	マルスダレガイ目 マルスダレガイ科		
生物学的特徴	分布	九州以南	
	成貝殻長	4cm	
	主生息域	潮下帯から水深 20m の砂底	
	利用	酒蒸し	
備考			(今井秀行氏提供；沖縄本島にて採取)

和名	アリソガイ		
学名	<i>Coelomactra antiquata</i> (Spengler, 1802)		
	マルスダレガイ目 バカガイ科		
生物学的特徴	分布	相模湾以南	
	成貝殻長	8cm	
	主生息域	潮下帯下部から水深 20m の砂底	
	利用	酒蒸し、刺身	
備考			(今井秀行氏提供；沖縄本島にて採取)

## 干潟の珪藻類

海洋には多くの珪藻類が生息しているが、沿岸域で見られる珪藻は底生性と浮遊性に大別される。その中でも干潟では、砂粒や泥上に付着するもの、それらの上を滑走運動するもの、浮遊していたものが沈降し堆積したものなど多様な生育形をもつ種類が混在している。さらに河口域では海産種や汽水産種だけでなく、河川から流下してきた淡水産種も観察される。本稿では、干潟で見られる珪藻類の中でも代表的な属を取り上げ、その特徴を簡単に記述し、光学顕微鏡写真を添えた。なお、用語や和名に関しては小林ら（2006）に従った。

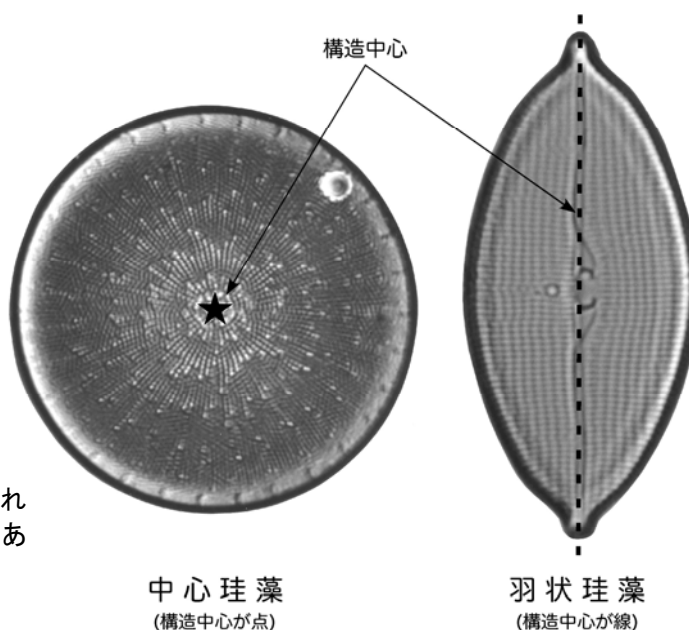


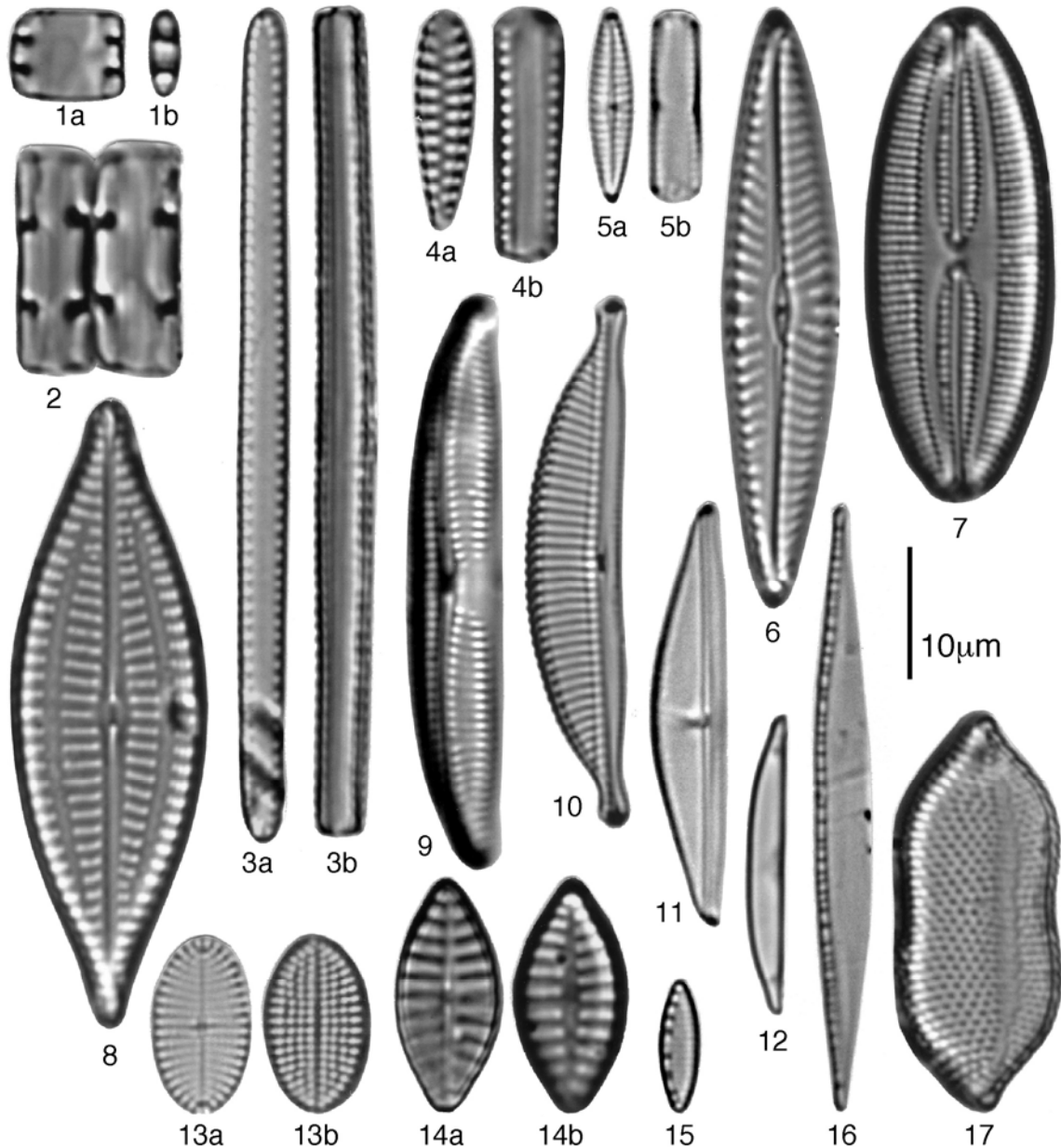
付図1 被殻各部の名称

珪藻の細胞は、珪酸質を主成分とした上下(内外)2つの殻と、その間にある数枚のリング状の帯(帯片)がペトリ皿のように合わさったつくりになっている。この状態を被殻という。外側の殻を上殻とよび、それに付随する帯片と合わせて上半被殻とよぶ。同様に内側の下殻と帯片を合わせて下半被殻とよぶ。殻面には条線や滑走運動に関係する縦溝がある。条線の形状や数、縦溝の有無は分類形質として重要である。

付図2 中心珪藻と羽状珪藻

珪藻は大きく中心珪藻、羽状珪藻に分けられる。違いは、中心珪藻は構造中心が“点”であり、羽状珪藻は“線”であることである。





付図3 干潟の珪藻類

1, 2: カイコダナケイソウ属 3: ウミノイトケイソウ属 4: クサビハリケイソウ属 5, 6: フネケイソウ属 7: マクハリタテゴトケイソウ属 8: シグレケイソウ属 9, 10, 11: ニセクチビルケイソウ属 12: ニセイチモンジケイソウ属 13: コメツブケイソウ属 14. フトスジツメワカレケイソウ属 15, 16: ササノハケイソウ属 17: タテミゾケイソウ属

カイコダナケイソウ属 *Eunotogramma* (付図3: 1, 2)

殻面(1b)は楕円形で、やや左右不相称(背腹性がある)。帯面(1a, 2)は長方形。殻の内側に肋が発達し明瞭、光学顕微鏡でも確認できる。単体あるいは鎖状の群体を形成し、砂粒などに付着して生育する。分布は広いが、小型ゆえ確認されにくい。本属は近年、中心珪藻と羽状珪藻の中間に位置するものとして設立されたグループに属し、珪藻の進化系統を研究する上で重要な分類群である (Medlin and Kaczmarska, 2004; 鈴木・南雲, 2006)。

### ウミノイトケイソウ属 *Thalassionema* (付図3: 3)

被殻は細長い針状。殻面(3a)は長線形、帯面(3b)は長方形。縦溝をもたない。被殻の一端で繋がったジグザグ状、または扇状の群体を形成する。浮遊性で沿岸域に広く分布するが、帰属する種類は少ない。

### クサビハリケイソウ属 *Opephora* (付図3: 4)

殻面(4a)はこん棒状あるいは菱形、帯面(4b)は長方形。縦溝をもたない。放射状の群体を形成して砂粒に付着する。小型の種が多く、帰属が混迷しており、電子顕微鏡による詳細な観察が必要とされている。

### フネケイソウ属 *Navicula* (付図3: 5, 6)

殻面(5a, 6)は皮針形で、殻端は尖るものから、頭状、くちばし状など様々。帯面は長方形(5b)。縦溝という狭い溝を上下の両殻にもつ。ほとんどの種類が単体で生育し、基質面を滑走運動する。海産、淡水産問わず、水界に広く分布する種類で多様性に富んでいる。羽状珪藻類の中で最も種類が多い。古くは舟形をした珪藻の多くがこの属の種類とされていたが、研究の発展に伴い、分類形質が明確な分類群が新しい属にまとめられ、分けられないものがこの属に取り残された状態になっている。

### マクハリタテゴトケイソウ属 *Fallacia* (付図3: 7)

被殻は舟形で、殻面は皮針形から楕円形。縦溝に沿ってH字形の無紋域があるのが特徴。単体で付着して生育する。本属は近年までフネケイソウ属に含まれていたが、殻微細構造の研究に基づき独立の属として新設された(Round et al., 1990)。現在も新組み合わせや新種記載が続き、多くの種が含まれるグループとなっているが、本邦産種の分類学的研究は進んでいない。

### シグレケイソウ属 *Fogedia* (付図3: 8)

殻面は広皮針形で、殻端はくちばし状に突出する。殻表面は平らで、縦溝の両側に殻縁に沿って無紋域がある。干潟域に出現する種類の中では比較的大きい。単体で付着して生育する。本属は前属と同様、近年までフネケイソウ属に含まれていたが、殻微細構造の研究に基づき独立の属として新設された(Witkowski et al., 1997)。

### ニセクチビルケイソウ属 *Amphora* (付図3: 9, 10, 11)

被殻を構成する上下2枚の殻が平行ではなく、果物を四つ割るか八つ割りにしたような形をしている。殻面は左右不相称で、細い半円形。縦溝は腹側に偏在する。付着珪藻として出現する代表的な属で、多くの種を含む。

### ニセイチモンジケイソウ属 *Catenula* (付図3: 12)

殻面は半円形で殻端はくちばし状。ニセクチビルケイソウ属に似るが、殻表面が平らで、上下の殻が平行になる点が異なる。殻は大変薄く、条線は短く背側にあるだけなので、光学顕微鏡では殻面の模様はほとんど確認できない。縦溝は腹側に偏って存する。鎖状群体の形成し、砂粒等

に付着して生育する。

#### コメツブケイソウ属 *Cocconeis* (付図3: 13)

殻面は楕円形から広楕円形で被殻は平たい。殻面が著しく湾曲する種類もいる。上下の殻のうち一方の殻にのみ縦溝をもつので(13a: 縦溝殻, 13b: 無縦溝殻), 種類の同定には両殻の構造を確認する必要がある。沿岸域の付着珪藻として代表的な種類で、単体で海藻や海草の表面の他、砂粒表面にも強く付着する。干潟域では小型の種類が観察されるが、同定が難しく未記載種がほとんどである。時に淡水産種が観察されることがあるが、それは河川より殻自体が流下してきたか、あるいは器物に付着したまま運ばれ、剥離したものと考えられる。

#### フトスジツメワカレケイソウ属 *Planothidium* (付図3: 14)

殻面は皮針形、殻端は広円形からくしばし形。コメツブケイソウ属と同様、上下の殻のうち一方の殻にのみ縦溝をもつ(14a: 縦溝殻, 14b: 無縦溝殻)。単体あるいは短い鎖状群体を形成して付着する。多くが淡水産種であるが、一部汽水産や海産種も含まれる。本属は近年ツメケイソウ属(*Achnanthes*)の一部の殻微細構造の研究に基づき、数属に細分化、新設されたもののひとつである(Round and Bukhtiyarova, 1996)。しかしその後、電子顕微鏡による詳細な観察が行われるたびに新たな発見があり、近縁属と共に属の再定義が必要とされている。干潟域では多くの分類群が観察されるが、そのほとんどが手つかずの状態である。

#### ササノハケイソウ属 *Nitzschia* (付図3: 15, 16)

殻面は紡錘状皮針形。ほとんどの種類の縦溝は殻面の片側の縁に沿ってあり、小骨点を伴う(光学顕微鏡では黒色の点として見える)。殻形や殻表面の模様(条線など)が類似するものが多く、同定が難しい。ほとんどの種類が単体で生育し、基質面を滑走運動する。フネケイソウ属と同様、水界に広く分布し、多様である。

#### タテミゾケイソウ属 *Psammodictyon* (付図 3: 17)

殻面はバイオリン形で殻の中央部でわずかにくびれる。殻端は鈍角にとがる。殻表面が長軸方向に緩やかに湾曲し、浅い溝になる。ササノハケイソウ属と同様に、縦溝は殻面の片側の縁に沿ってあり、小骨点を伴う。本属は近年までササノハケイソウ属に含まれていたが、殻微細構造や葉緑体の構造の相違により、独立の属として新設された(Round et al., 1990)。